

# 課題改善カリキュラム[外国語活動・英語科] 練馬区立豊玉中学校・豊玉小学校・豊玉南小学校

課題:小中連携による小学校の外国語活動と中学校の英語科での学習指導を円滑に接続するために、それぞれの学習期での学習内容を把握した上での指導の工夫が必要である。

学習期		身につけさせたい資質・能力	カリキュラム改善の視点	各校での指導の工夫
小学校	5年	言語の使用場面や状況(あいさつ、自己紹介、道案内、家庭での生活、学校での学習や活動など)における簡単な表現を理解し、その場面や状況に応じた簡単な問いに答えたり、反応することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスルームイングリッシュの汎用性を理解する。(例: How's the weather?/ What day is it today? It is... / What time is it?)</li> <li>・日常生活で多用する形容詞の使用場面を理解する。(例: active/brave/busy/cool...)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での学習活動でのクラスルームイングリッシュの使用場を増やし、中学校への接続につなげる。</li> <li>・自然な文脈での形容詞の使い方に慣れるように、よく使うものに繰り返し慣れ親しむ工夫をする。</li> </ul>
	6年	言語の働き(コミュニケーションを円滑にする、気持ちを伝えるなど)に関する簡単な表現を理解し、それらにつながる簡単な問いに答えたり、自分の気持ちなどを伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介、学校生活の思い出、将来の夢等について述べる活動の接続性を考える。(例:I have... / I went to... / It was... / I want to be... / I can...)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介や将来の夢を述べる活動が中学校以降のShow and Tellやスピーチにつながるように、小学校で簡単な活動を経験させておく。そのときにジェスチャーやアイコンタクトなどの効果的な伝え方の工夫にも触れ、コミュニケーションを円滑にする方法、ストラテジーを考えさせる。</li> </ul>
中学校	1年	学校生活の様々な場面で、あいさつや身近な話題に関する日常的なやりとり等を聞いたり、読んだりしながら必要な英語表現を理解できる。また、それにつながる簡単な質問に答えたり、自分の気持ちを述べたり、書いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字導入期のアルファベットや簡単な数字などの綴り指導については、小学校で慣れ親しんでいるフォニックス指導を引き継ぐ。</li> <li>・学校生活の様々な場面で自然な英語でのやりとりが実現するような言語活動を中心に、中学校への指導の接続を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声指導から文字指導へのスムーズな移行のために有効なフォニックス指導の現状を小学校から聞き取り、中学校の教員がそれを引き継ぐことで指導を円滑に接続する。</li> </ul>
	2年	身近な問題(職場体験やユニバーサルデザインなど)について聞いたり、読んだりしながら理解し、自分の経験や知っていることなどを話したり、書いたりしながら説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携による授業観察等とおして、小学校で扱う生活語彙や表現の中にも中学校の後半で学習するような高度なものがあることを理解する(例:過去形を用いたI was ... / 動詞+形容詞 look excited / 不定詞など)。</li> <li>・ユニバーサルデザインやキャリア教育などのテーマは小学校でも取り扱っていることを理解する。また、教科横断的な視点で学習内容を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア活動やグループ活動のルールについては小中連携の視点から小学校、中学校ともに教科横断的に統一したもの(例:話し合い活動のルールやフレーム)を共有し、英語科の指導につながるように、協同学習の円滑な接続を目標にする。</li> </ul>
	3年	より社会的な問題(諸外国からみた日本文化についての評価、世界の環境問題、フェアトレード、AI社会など)についての意見文を聞いたり、読んだりしながら理解し、自分の考えをその理由や根拠とともに順序立てて話したり、書いたりしながら効果的に伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に3年時に学習する複雑な文法事項を理解する前に習得しておく必要のある品詞の種別の理解や語順に関する意識を高める工夫を検討し、小学校でも可能な指導を考える。(例:「We Can!」には品詞の働きの特徴に意識させる工夫があったり、語彙数の多い名詞句表現も扱っている。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で触れた生活語彙や文法事項について、中学校でそれらの運用についての知識が高まるように、言語使用の目的が自然な場面において必然性を伴うものであるように(authenticityを意識した)言語活動を充実させる。</li> <li>・小学校と中学校で共通するテーマ(ユニバーサルデザインなど)については中学校でより学習の深まりが見られるように、学習内容についての情報を共有し、授業作りにつなげる。</li> <li>・小学校で学習したことを必要な場面で生徒が引き出せるように(elicitationを意識した)、生徒のオリジナリティを評価するパフォーマンステストを実施する。</li> </ul>